

筑波大学特別支援教育連携推進グループ

令和7年度現職教員研修 開始当初（4月）の様子

（専門性向上研修・1年）

令和7年度現職教員研修（専門性向上研修・1年）が始まりました。今年度1人目の研修生は、北海道帯広聾学校から派遣された宮木沙絵先生です。令和7年4月1日（火）から令和8年3月31日（火）までの1年間、茗荷谷の筑波大学東京キャンパスと、附属聴覚特別支援学校で研修を受けられます。

宮木先生の研究テーマは、「子ども同士のやりとりを育むための指導者の関わりについて」です。附属聴覚特別支援学校幼稚部での実践実習では、3歳児から5歳児まで全体を通して、子ども同士のやりとりを促す保育の実践や、効果的な教師の介入についての分析を行っていく予定です。

1週目から2週目にかけては、連携推進グループ員による講義や、実践実習を行う附属聴覚特別支援学校の参観がありました。宮木先生は積極的にご質問されたり、参観先のご希望を自発的に挙げられたりするなど、意欲的に研修に臨まれています。

4月9日（水）には、研修の開講式を開催しました。宮木先生は、実践実習や他の附属学校の参観など、今後得られる様々な機会を前向きに見据え、抱負を述べられていました。教育局次長の梶山先生からも、温かい励ましのお言葉をいただきました。

4月11日（金）の総合演習では、北海道帯広聾学校の紹介や、研究テーマに関するプレゼンテーションを行っていただきました。今後、実践実習を通して行う研究の計画について、先行研究も挙げながら熱意を込めてご説明くださいました。研究から得られる成果について、とても期待できる内容でした。

5月12日（月）から、附属聴覚特別支援学校幼稚部にて前期の実践実習を開始する予定です。1年間の研修の中で、有意義な成果を収められることを期待しています。



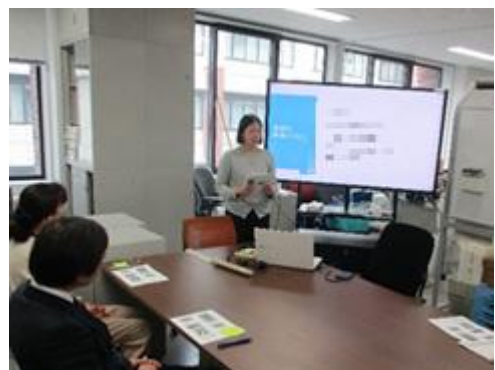
宮木先生の挨拶



梶山次長の挨拶



宮木先生を囲んで



宮木先生の発表(総合演習)



グループ員による講義

開講式・総合演習・講義の様子